音楽部会
仲間と学び合い、豊かな文化を子どもたちに渡したい

四谷　悦子

学校に豊かな文化を～音楽を通して～

教室・学校に、授業・学校行事を通して、豊かな文化を創造していきたい。学校こそ豊かな文化の発信場所に、との願いをずっと持ち続けています。

このテーマのもと、今年度も授業研究を行い教材や授業の組み立て等について互いに学びを深めてきました。また、教職員と協働した学校作りを考えていきたい、部員やいろいろな分野の実践者から学び、その中で音楽科としての教科の特性を明らかにしていこうと、部会・公開授業を開き活動しています。

【6月・公開授業】

府中市立南白糸台小学校・1年生担任の嶌田千津子さんが「リズム表現と歌」の公開授業を行いました。学年4クラスで「リズム表現と歌」の楽しさが共通理解され、学校に広がっています。講師の荻野貴代美さんと大塚悦代さん、群馬の保育士さんたちと一緒に、全身で音楽を感じながらいきいきとリズム表現をする子どもたちの姿から、リズム表現の楽しさ、歌う楽しさが伝わってきました。

【公開講座】

7月は「生きる力を支え励ます文法のはなし」（音楽教育の会文学講座・葛飾作文の会と共催）。見城慶和先生から、夜間中学や生徒さんたちのこと、学ぶとはどういうことか、ということを学びました。

11月は「シューベルト歌曲集・美しき水車小屋の娘」。作曲家・ピアニストの寺嶋陸也さんから、シューベルトが詩の言葉をどのように音楽として表現したのか、お話とピアノを聴きました。

1月は「家庭教育支援法って?」。NPO法人家庭科教育研究者連盟の知識明子さんのお話を聞き、国会に提出されようとしているこの法案が、何をねらっているのかを知ることができました。

【2月の部会】「展覧会・キッズゲルニカ発表会への取り組みについて」、部員の森谷直美さんが図工専科、6年担任、音楽専科と協働した実践を報告し、学校の中に豊かな文化が伝わっていくことの素晴らしさを部員一同学びました。

その他、11月の第67次東京教研の音楽教育分科会では、部員が実践を出し合い、教材を間に子どもと教師が心を通わせ共に育つ授業、一人ひとりの思いや表現を受けとめ喜びあふれる授業をめざし、学び合いました。

子どもたちとじっくり向き合うことが難しくなっている状況の中ですが、長年、東京民研や東京教研の学びの場で確かめられてきた教材を的確に子どもたちに手渡すことによって、豊かな授業を創り出す努力を重ねています。これからも学校に豊かな文化を育て、人間が人間らしく生きることができる学校創りをめざし、職場の中でもしっかりと根を張り、活動していきたいと思います。

（府中・四谷小）